

○提出者別タクソノミガイドライン（IFRS適用提出者用） 新旧対照表

新	旧
<p data-bbox="284 354 652 394"><b>1-1 提出書類の全体像</b></p> <p data-bbox="231 420 276 445">(略)</p> <hr data-bbox="231 451 1359 455"/> <p data-bbox="270 478 682 512"><b>IFRS タクソノミの版について</b></p> <hr data-bbox="231 535 1359 539"/> <p data-bbox="261 560 1308 625">IFRS財務諸表の一部又は全部を詳細タグ付けする場合にEDINETタクソノミとともに用いるIFRSタクソノミの版は、IFRSタクソノミ2013です。</p> <p data-bbox="261 651 1308 827">なお、IFRSの改正を取り込んだ版がInterim Releaseとして、IFRS財団のWebサイト(<a href="http://www.ifrs.org/XBRL/IFRS-Taxonomy/Pages/Interim-releases.aspx">http://www.ifrs.org/XBRL/IFRS-Taxonomy/Pages/Interim-releases.aspx</a>)にて提供されていますが、Interim Releaseは、日本語ラベルが提供されないため、使用しないでください。ただし、<u>Interim Releaseで新たに追加された要素は、提出者別要素を追加する際に参考とすることができます。</u></p> <hr data-bbox="231 871 1359 875"/>	<p data-bbox="1537 354 1905 394"><b>1-1 提出書類の全体像</b></p> <p data-bbox="1486 420 1531 445">(略)</p> <hr data-bbox="1486 451 2614 455"/> <p data-bbox="1537 478 1949 512"><b>IFRS タクソノミの版について</b></p> <hr data-bbox="1486 535 2614 539"/> <p data-bbox="1528 560 2576 625">IFRS財務諸表の一部又は全部を詳細タグ付けする場合にEDINETタクソノミとともに用いるIFRSタクソノミの版は、IFRSタクソノミ2012です。</p> <p data-bbox="1528 651 2576 789">なお、IFRSの改正を取り込んだ版がInterim Releaseとして、IFRS財団のWebサイト(<a href="http://www.ifrs.org/XBRL/IFRS-Taxonomy/Pages/Interim-releases.aspx">http://www.ifrs.org/XBRL/IFRS-Taxonomy/Pages/Interim-releases.aspx</a>)にて提供されています。開示書類等提出者は必要に応じてこのInterim Releaseを使用することが可能です。<u>Interim Releaseに関する情報は、当該Webサイトを参照してください。</u></p> <hr data-bbox="1486 833 2614 840"/>

## 新

### 1-2 EDINET タクソノミ利用時との主な相違点

(略)

#### ➡ 注記表について

IFRS タクソノミでは、既存の IFRS タクソノミに必要な注記表が存在しない場合、任意の注記表を定義できます。

また、IFRS タクソノミで注記表に用意されている要素のうち、データ型が「monetaryItemType」のものは、財務諸表本表の勘定科目としても使用できます。

#### ➡ デイメンションについて

デイメンションを用いる対象及び構造は、EDINET と必ずしも同じではありません。IFRS タクソノミでは、次のような情報を表現する場合にはデイメンションを使用します。

- ・従前の会計原則から IFRS への移行に伴う財務上の影響
- ・事業セグメント
- ・資本の内訳項目
- ・企業結合
- ・帳簿価額、償却及び減損累計額並びに償却累計額控除前の帳簿価額

IFRSタクソノミのデイメンションのうち、「継続事業及び非継続事業」、「遡及適用及び遡及的修正再表示」及び「作成日」のデイメンションは、EDINETに提出する報告書では使用を禁止します。

なお、遡及適用又は遡及的修正再表示を行う場合は、提出者別タクソノミで新たに表示項目用の要素を追加することによって対応します。

### 1-3 IFRSタクソノミ2012との相違点

(内容は『提出者別タクソノミ作成ガイドライン (IFRS適用提出者用)』を参照してください。)

## 旧

### 1-2 EDINET タクソノミ利用時との主な相違点

(略)

#### ➡ 注記表について

IFRSタクソノミでは、既存のIFRSタクソノミに必要な注記表が存在しない場合、拡張リンクロールを新規に追加し、任意の注記表を定義できます。

また、IFRS タクソノミで注記表に用意されている要素のうち、データ型が「monetaryItemType」のものは、財務諸表本表の勘定科目としても使用できます。

#### ➡ デイメンションについて

デイメンションを用いる対象及び構造は、EDINET と必ずしも同じではありません。IFRS タクソノミでは、次のような情報を表現する場合にはデイメンションを使用します。

- ・遡及適用及び遡及的修正再表示
- ・従前の会計原則から IFRS への移行に伴う財務上の影響
- ・事業セグメント
- ・資本の内訳項目
- ・企業結合
- ・帳簿価額、償却及び減損累計額並びに償却累計額控除前の帳簿価額

IFRS タクソノミのデイメンションのうち、「継続事業及び非継続事業」及び「作成日」のデイメンションは、EDINET に提出する報告書では使用を禁止します。

### 1-3 IFRSタクソノミ2011との相違点

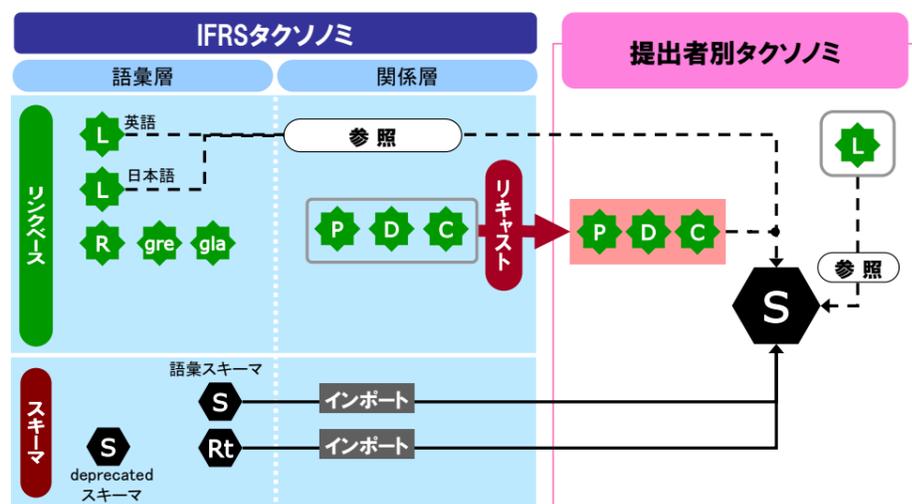
(内容は『提出者別タクソノミ作成ガイドライン (IFRS適用提出者用)』を参照してください。)

新

### 1-4 IFRS タクソノミを用いて提出する書類のタクソノミ構造

(略)

図表 1-4-1 タクソノミの構造



凡例	
<b>スキーマ</b>	<b>リンクベース</b>
S タクソノミスキーマ	L 名称リンク
Rt ロールタイプスキーマ	P 表示リンク
	D 定義リンク
	R 参照リンク
	C 計算リンク
	gla ジェネリックラベルリンク
	gre ジェネリックリファレンスリンク

### 1-4-2 IFRSタクソノミ参照用エントリーポイント

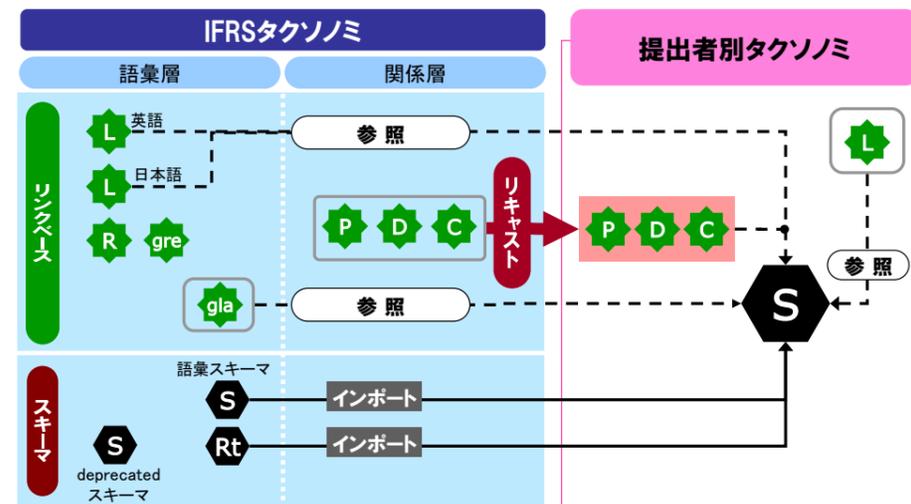
IFRSタクソノミ参照用のエントリーポイントファイルは、IFRS財団が提供しています。日本語ラベル参照用エントリーポイントファイルは、日本語ラベルとともに提供され、「full\_entry\_point {タクソノミ日付}-ja.xsd」というファイル名です。

旧

### 1-4 IFRS タクソノミを用いて提出する書類のタクソノミ構造

(略)

図表 1-4-1 タクソノミの構造



凡例	
<b>スキーマ</b>	<b>リンクベース</b>
S タクソノミスキーマ	L 名称リンク
Rt ロールタイプスキーマ	P 表示リンク
	D 定義リンク
	R 参照リンク
	C 計算リンク
	gla ジェネリックラベルリンク
	gre ジェネリックリファレンスリンク

### 1-4-2 EDINETタクソノミのIFRS参照用エントリーポイント

IFRS参照用のエントリーポイントのファイルは、「entryPoint\_ifrs\_{タクソノミ日付}.xsd」というファイル名で、EDINETタクソノミの「samples」フォルダに格納されています。

新	旧
<p><b>1-4-3 提出者別タクソノミについて</b></p> <p>提出者別タクソノミは、スキーマファイル及びリンクベースファイルで構成されます。スキーマファイルでは、IFRSタクソノミをインポート又は参照し、追加する要素を定義します。また、提出者別タクソノミのリンクベースファイルを参照します。リンクベースファイルには、表示リンク、定義リンク、計算リンク及び名称リンク（日本語及び英語）があり、表示リンク、定義リンク及び計算リンクは、再構成（リキャスト）で作成するため、対象となる項目の親子関係全てを定義します。名称リンクは、名称の上書き又は追加した要素に対する設定を記載します。</p> <p>提出者別タクソノミの詳細は、「5章 スキーマファイルの作成」を参照してください。</p> <p><b>4-4 IFRSタクソノミのインポート又は参照</b></p> <p>提出者別タクソノミのスキーマファイルを作成した後、IFRSタクソノミの語彙スキーマをインポートします。</p> <p>次に、「3章 提出者別タクソノミ作成前の準備 3-1 IFRSタクソノミのコンポーネントの選択」で選択したコンポーネントに対応するリンクベースファイルのURLを、linkbaseRef要素のhref属性に指定します。その際、選択した拡張リンクロールに対応する表示リンク、定義リンク及び計算リンクは、再構成（リキャスト）で利用します。また、名称リンク（日本語及び英語）は参照します。参照する際には、絶対パスで参照先を指定します。</p> <p>さらに、選択した拡張リンクロールに対応するロールタイプスキーマをインポートします。</p> <p><b>5-2 拡張リンクロールの追加</b></p> <p>開示書類等提出者が追加する拡張リンクロールは、IFRSタクソノミを参考にし、任意に設定可能です。</p> <p><u>拡張リンクロールを追加する場合には、必ずdefinition要素を設定します。definition要素の値には、先頭に[数値 6桁]を追加します。[数値 6桁]は原則として提出書類の記載順番と整合するようにします。</u></p> <p><u>ただし、「財務諸表注記」の拡張リンクロールのdefinition要素の[数値 6桁]は、[800501]（財務諸表本表に次ぐ順番の数値）とします。「財務諸表注記」の拡張リンクロールについては、「<a href="#">図表 7-2-1 財務諸表注記事項の拡張リンクロール</a>」を参照してください。</u></p>	<p><b>1-4-3 提出者別タクソノミについて</b></p> <p>提出者別タクソノミは、スキーマファイル及びリンクベースファイルで構成されます。スキーマファイルでは、IFRSタクソノミをインポート又は参照し、追加する要素を定義します。また、提出者別タクソノミのリンクベースファイルを参照します。リンクベースファイルには、表示リンク、定義リンク、計算リンク及び名称リンク（日本語及び英語）があり、表示リンク、定義リンク及び計算リンクは、再構成（リキャスト）で作成するため、対象となる項目の親子関係全てを定義します。名称リンクは、名称の上書き又は追加した要素に対する設定を記載します。<u>また、ジェネリックラベルリンクは必要に応じて参照します。</u></p> <p>提出者別タクソノミの詳細は、「5章 スキーマファイルの作成」を参照してください。</p> <p><b>4-4 IFRSタクソノミのインポート又は参照</b></p> <p>提出者別タクソノミのスキーマファイルを作成した後、IFRSタクソノミの語彙スキーマをインポートします。</p> <p>次に、「3章 提出者別タクソノミ作成前の準備 3-1 IFRSタクソノミのコンポーネントの選択」で選択したコンポーネントに対応するリンクベースファイルのURLを、linkbaseRef要素のhref属性に指定します。その際、選択した拡張リンクロールに対応する表示リンク、定義リンク及び計算リンクは、再構成（リキャスト）で利用します。また、名称リンク（日本語及び英語）<u>及びジェネリックラベルリンクは、参照します。</u>参照する際には、絶対パスで参照先を指定します。</p> <p>さらに、選択した拡張リンクロールに対応するロールタイプスキーマをインポートします。</p> <p><b>5-2 拡張リンクロールの追加</b></p> <p>開示書類等提出者が追加する拡張リンクロールは、IFRSタクソノミを参考にし、任意に設定可能です。</p> <p>(追加)</p>

新

6-1-1 名称リンク定義の規約

(略)

6-1-1-1 名称リンクの上書きについて

(略)

図表 6-1-2 表示とラベルとの一致に関するルール

No	ケース	ルール(上段)及び例外(下段)
1	財務諸表本表中の金額のタグ付け及び抽象要素	表示科目とラベルとは、限定的な例外を除き一致させるようにします。 <b>例外</b> 次のケースでは、表示科目とラベルとの不一致を認めます。 ・持分変動計算書等における遡及処理の表記をする場合の純資産要素の表示科目とラベルとの不一致。
2	No1以外の金額及び数値のタグ付け	原則として、表示科目とラベルとは、一致させるようにします。 <b>例外</b> 表示科目と要素概念との一致を前提に、次のような例外においては不一致を認めます。 ・セグメント情報におけるセグメント利益、セグメント資産等の表示科目とラベルとの不一致(セグメント情報では、調整対象となる財務諸表本表科目がある場合、当該調整対象となる財務諸表本表科目と同じ要素でタグ付けします。)
3	ディメンションのメンバー要素及び財務諸表本表以外の抽象要素	「合計」、「小計」等、表示名称が用途別に変化する場合は、必ずしも一致させる必要はありません。
4	その他のタグ付け	記載内容と要素概念との一致を前提に、表題とラベルとは必ずしも一致させる必要はありません。
5	用途別ラベル	IFRSタクソノミに必要な用途別ラベルが定義されていない場合、用途別ラベルの追加ができます。なお、ラベルロールを本来の意味と異なる用途で流用することは不可です。

- ※ 表示とラベルとの一致に関しては、次の留意事項に注意してください。
- ・ (株)、(円) 等の単位表記の有無の違いのみで不一致とはみなしません。
  - ・ 名称の一部でない部分はラベルに含めないこと (例えば、脚注記号及び番号)。
  - ・ 「[タイトル項目]」、「[メンバー]」等の要素の種類分けを表す文言は除外したうえで、表示とラベルとの一致を判定してください。

旧

6-1-1 名称リンク定義の規約

(略)

6-1-1-1 名称リンクの上書きについて

(略)

図表 6-1-2 表示とラベルとの一致に関するルール

No	ケース	ルール(上段)及び例外(下段)
1	財務諸表本表中の金額のタグ付け	表示科目とラベルとは、限定的な例外を除き一致させるようにします。 <b>例外</b> 次のケースでは、表示科目とラベルとの不一致を認めます。 ・持分変動計算書等における遡及処理の表記をする場合の純資産要素の表示科目とラベルとの不一致。
2	No1以外の金額及び数値のタグ付け	原則として、表示科目とラベルとは、一致させるようにします。 <b>例外</b> 表示科目と要素概念との一致を前提に、次のような例外においては不一致を認めます。 ・セグメント情報におけるセグメント利益、セグメント資産等の表示科目とラベルとの不一致(セグメント情報では、調整対象となる財務諸表本表科目がある場合、当該調整対象となる財務諸表本表科目と同じ要素でタグ付けします。)
3	ディメンションのメンバー要素	「合計」、「小計」等、表示名称が用途別に変化する場合は、必ずしも一致させる必要はありません。
4	その他のタグ付け	記載内容と要素概念との一致を前提に、表題とラベルとは必ずしも一致させる必要はありません。
5	用途別ラベル	IFRSタクソノミに必要な用途別ラベルが定義されていない場合、用途別ラベルの追加ができます。なお、ラベルロールを本来の意味と異なる用途で流用することは不可です。

## 新

### 6-1-2 略称ラベルの設定

標準ラベルの一意性を保ったまま表示名を変更したい要素に対しては、略称ラベルを設定します。

例えば、標準ラベルの「流動資産 [タイトル項目]」に対して略称ラベルを「流動資産」と設定することが可能です。その場合は、表示リンクのpreferredLabel属性に略称ラベルを指定します。

### 7-1 持分変動計算書

持分変動計算書は、純資産の勘定科目と変動事由（遡及処理を含む。）の組合せで、論理的にマトリックス形式であると考えことができ、他の財務諸表本表とは異なる対応が必要となります。

IFRSタクソノミでは、持分変動計算書はディメンションを使用して表現されます。具体的には、純資産の勘定科目が軸要素（「資本の内訳項目 [軸]」）のメンバーで、また、変動事由が表示項目でそれぞれ表されます。なお、IFRSタクソノミの「遡及適用及び遡及的修正再表示軸」は、使用しないものとします。開示書類等提出者は、提出者別タクソノミで表示項目用の要素を追加することによって対応します。要素の定義内容は、「図表 7-1-1 会計方針の変更による累積的影響額の設定値」及び「図表 7-1-2 会計方針の変更を反映した当期首残高の設定値」を参照してください。

図表 7-1-1 会計方針の変更による累積的影響額の設定値

項目	設定内容	
●スキーマファイルに設定		
要素名	CumulativeEffectsOfChangesInAccountingPolicies	
属性	type	monetaryItemType
	substitutionGroup	item
	periodType	instant
	balance	credit
	abstract	false
●名称リンクファイルに設定		
標準ラベル	(日本語)	会計方針の変更による累積的影響額
	(英語)	Cumulative effects of changes in accounting policies

## 旧

### 6-1-2 略称ラベルの設定

標準ラベルの一意性を保ったまま表示名を変更したい要素に対しては、略称ラベルを設定します。

### 7-1 持分変動計算書

持分変動計算書は、純資産の勘定科目と変動事由との組合せで、論理的にマトリックス形式であると考えことができ、他の財務諸表本表とは異なる対応が必要となります。

IFRSタクソノミでは、持分変動計算書はディメンションを使用して表現されます。具体的には、純資産の勘定科目が軸要素（「資本の内訳項目 [軸]」）のメンバーで、また、変動事由が表示項目でそれぞれ表されます。なお、遡及処理を行う場合は、遡及適用及び遡及的修正再表示の内訳項目（「遡及適用及び遡及的修正再表示[軸]」）も同時に使用し、多次元のディメンション表になります。

(追加)

新

図表 7-1-2 会計方針の変更を反映した当期首残高の設定値

項目		設定内容
●スキーマファイルに設定		
要素名		RestatedBalance
属性	type	monetaryItemType
	substitutionGroup	item
	periodType	instant
	balance	credit
	abstract	false
●名称リンクファイルに設定		
標準ラベル	(日本語)	会計方針の変更を反映した当期首残高
	(英語)	Restated balance

7-2 注記事項のテキストブロックでのタグ付け

財務諸表注記事項は、詳細タグ付けする範囲を含め、その全体を1又は複数のテキストブロックでタグ付けします。テキストブロックの粒度の選定は任意とします。

IFRSタクソノミに用意されている拡張リンクロールは利用せず、財務諸表注記の拡張リンクロール（「図表 7-2-1 財務諸表注記事項の拡張リンクロール」）を参照）及び財務諸表注記のタイトル項目（「図表 7-2-2 財務諸表注記事項のタイトル項目」を参照）をそれぞれ一つずつ追加し、その配下に注記事項のテキストブロック全てを記載順に配置します。

詳細タグ付けする注記事項については、注記事項のテキストブロックを注記事項ごとの拡張リンクロールと財務諸表注記の拡張リンクロールの両方に配置します。（例えば、セグメント情報を詳細タグ付けする場合は、セグメント情報のテキストブロックはセグメント情報の拡張リンクロールと財務諸表注記の拡張リンクロールの両方に配置します。）

図表 7-2-1 財務諸表注記事項の拡張リンクロール

項目	設定内容
roleID	ias_1_2013-03-28_role-800501
roleURI	http://xbrl.ifrs.org/role/ifrs/ias_1_2013-03-28_role-800501
definition	[800501] 財務諸表注記
usedOn	presentationLink、calculationLink、definitionLink
宣言箇所	提出者別タクソノミのスキーマファイル

旧

(追加)

7-2 注記事項をテキストブロックでタグ付けする場合

注記事項をテキストブロックでタグ付けする場合、その粒度の選定は任意とします。

なお、IFRSタクソノミに用意されている拡張リンクロールを変更せずにそのまま使うことができます。ただし、「7-2-1 注記番号ごとにタグ付けをする場合」及び「7-2-2 複数の注記番号をまとめてタグ付けをする場合」のように、IFRSタクソノミを変更して使用する場合は、タイトル項目を追加してください。

(追加)



新

図表 7-2-4 注記番号ごとのタグ付けをする際のタクソノミ構造



7-4 セグメント情報を詳細タグ付けする場合

(内容は『提出者別タクソノミ作成ガイドライン (IFRS適用提出者用)』を参照してください。)

旧

図表 7-2-2 IFRS タクソノミのテキストブロックを利用する場合の考え方



(追加)